

トリックアート自動生成システム

キーワード: 画像処理、錯視表現

研究概要

近年、だまし絵をはじめとするトリックアートは町おこしの集客や注意喚起の標札などに使われている。トリックアートを制作するためには、目の錯覚を表現する技術と画力を必要とすると同時に、膨大な時間と手間を要する。

本研究では、白い台紙の上に現実の物体を置いて、立体的に見える角度から写真を撮ることで、自動的に台紙内の物体を立体的に見せる画像を出力する。また、画像上部を切り取ることで立体的に見せることができるため、切り取り線を入れた画像を出力画像とする。さらには影を強調することで、錯視の強調を行った。評価実験により提案手法の有用性を示した。

